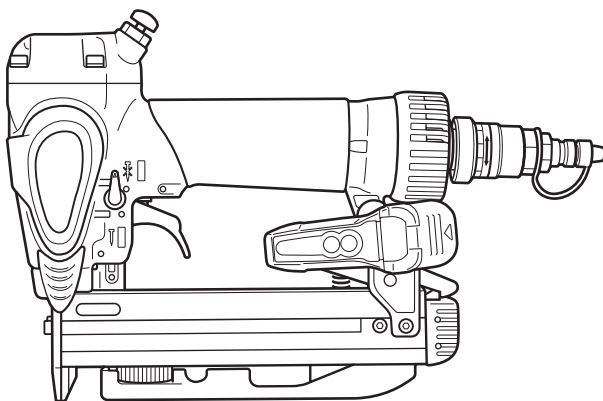
Hitachi Koki

日立高圧タッカ

〔エアダスタ付、ライト付フック〕

N 2504HM
N 2507HM
N 2510HM

取扱説明書

このたびは日立高圧タッカをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

N 2504HM

HITACHI

目　次

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠ 注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

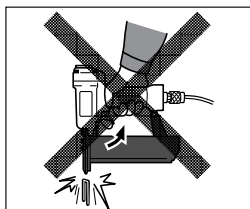
なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

高圧タッカの安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警　告

- **この機体は引金を引くだけでステープルが発射します。ステープルを打つとき以外は、引金に触れないでください。**
  誤ってステープルが発射すると、けがの原因になります。

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
  ステープルを連結している接着剤や打ち損じのステープルが目に当たると、けがの原因になります。

② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

タッカは、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス(酸素、アセチレン、プロパンなど)を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

③ 高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。

- この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
- この機体およびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてありますので、改造をしないでください。
  これら以外のものを使用すると事故の原因になります。

⚠ 警　告

④ **機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。**

⑤ **作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。**

⑤
⑥ **きちんとした服装で作業してください。**

⑦ **エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。**

- ねじ類がゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- 引金がロックできること。
  異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

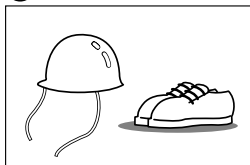
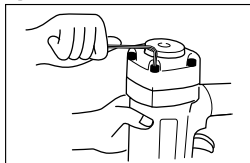
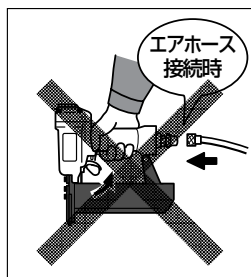
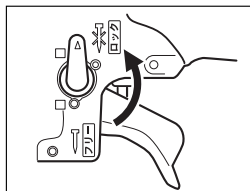
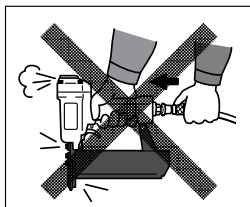
⑦
⑧ **エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。**

- 引金をロックする。
- 射出口を人体に向けない。
  誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

⑧
⑨ **ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。**

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
  異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑨
⑩ **用途にあった作業に使用してください。**

- この機体は、木材または類似の材料へのステープル打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⚠ 警　告

⑪ 指定のステープルを使用してください。

指定されたステープル以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑪

⑫ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、タッカやエアホースに触れさせないでください。
  けがの原因になります。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
  けがの原因になります。

⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
  暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業中

① 指定の空気圧力で使用してください。

- この機体の使用空気圧力範囲は 1.76 ～ 2.26 MPa {18 ～ 23 kgf／cm²} です。この範囲内で使用してください。
  2.26 MPa {23 kgf／cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

①

② 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

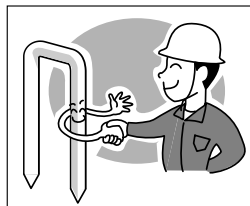
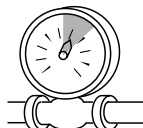
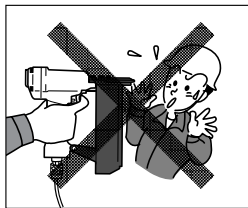
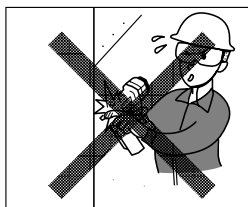
②

③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

誤ってステープルが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

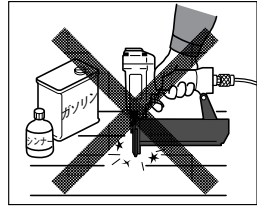
③

④ ステープルを打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。

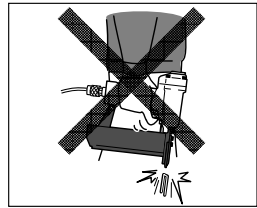
ステープルが突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

⚠ 警　告

⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、タッカやエアコンプレッサを使用しないでください。
  ステープルを打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑤

⑥ ステープルを打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- ステープルを装てんするときや調整などをするときは、引金に指をかけないでください。
  誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥

⑦ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
- 人体に吹き出し口を向けない。
- 射出口に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
  誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

⑧ 調圧器で打ち込み調整をするときは、引金をロックしてください。

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑨ ノーズキャップの着脱をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。〔N 2507 M〕

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

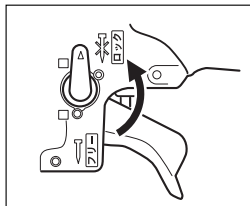
⑩ フックを使用するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

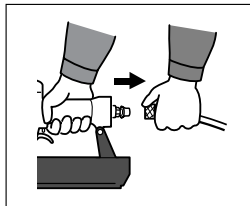
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⚠ 警　告

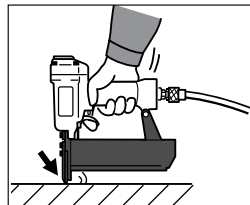
⑪ 次の場合は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、ステープルづまりの直しなどの場合。
- ステープルを装てんする場合。
- タッカを移動する際や手渡しする場合。
  誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑪

⑫ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑬ ステープルを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。
  ステープルがはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

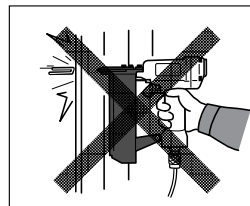
⑬

⑭ 作業中はまわりの人に注意してください。

ステープルを連結している接着剤や打ち損じたステープルが当たる恐れがあり、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
  機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。

⑮ 薄い板や木材の端にステープルを打たないでください。

薄い板に打つとステープルが突き抜けたり、木材の角に打つとステープルがそれたりして、けがの原因になります。

⑮

⑯ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⚠ 警　告

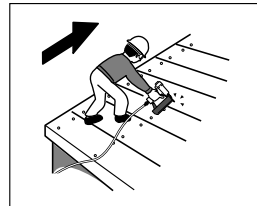
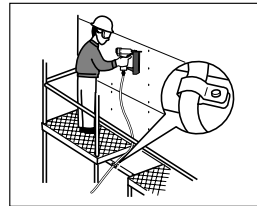
⑰ **壁の両側から同時にステープル打ち作業をしないでください。**

打ったステープルが突き抜けたり、壁ぎわのステープルがそれたりして、けがの原因になります。

⑱ **無理な姿勢で作業をしないでください。**

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
  転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、ステープル打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
  けがの原因になります。

⑲ **屋外での作業は、次のことに注意してください。**

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
  不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面でステープルを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面でステープルを打つときは、前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面にステープルを打つときは、上から下へ作業してください。

⑳ **油断しないで十分注意して作業を行なってください。**

- タッカを使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

㉑ **エアホースをつかんで機体を移動しないでください。**

⑰

⑲

⚠ 警　告

㉒ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

㉓ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

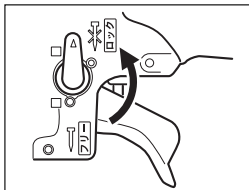
そのまま使用すると、けがの原因になります。

㉓

作業後

① 作業後は、エアホースをはずしてから、ステープルを全部抜き取ってください。

ステープルを残しておくと、次に使用するときに、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。

①

② タッカやエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

③ タッカは、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、タッカは常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品のお手入れは、取扱説明書に従ってください。

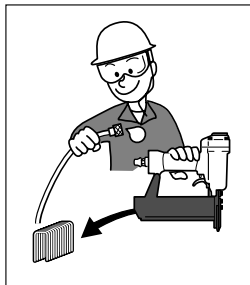
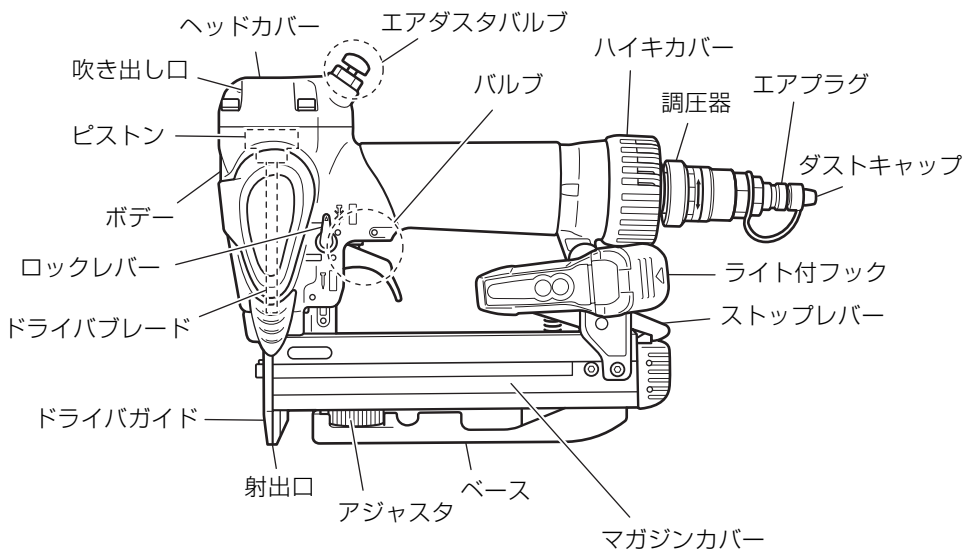
④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

安全性が損なわれ、けがの原因になります。

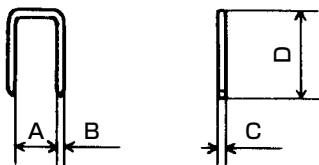
⑥ タッカの修理は、専門店に依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

各部の名称

仕　　様

項目 ＼ 形名	N 2504HM	N 2507HM	N 2510HM
動力形式	ピストン往復動式		
使用空気圧力	1.76～2.26 MPa ｛18～23 kgf／cm^2｝		
能力 （使用ステープル）	B 0413～B 0425 B 0419 S、B 0425 S B 0419W、B 0422 W B 0425 W	B 0713～B 0725 B 0719 S B 0722 S B 0725 S	B 1013～B 1025 B 1019 S B 1025 S
ステープルの装てん数	100本		
大きさ（長さ×高さ×幅）	290㎜×189㎜×54㎜		
製品質量	1.1kg		
使用エアコンプレッサ	日立工機高圧エアコンプレッサ　EC 1430H2		
使用エアホース	日立高圧エアホース 内径5㎜ー長さ10m、20m、30m 内径6㎜ー長さ10m、20m、30m		

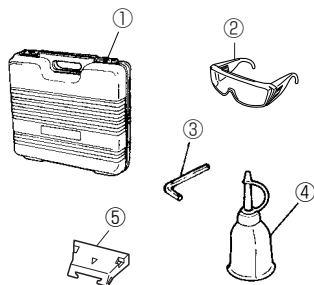
ステープルの選び方

この機体は、下の表に示すステープルが使用できます。ステープルは約100本が１連に接着されています。

寸法はおおよその値を示しております。ステープルはこのタッカをお買上げの販売店でお求めください。

（寸法単位：㎜）

N 2504M					N 2507M					N 2510M				
ステープル	A	B	C	D	ステープル	A	B	C	D	ステープル	A	B	C	D
B 0413	3.7	0.6	1.2	13	B 0713	6.8	0.9	1.25	13	B 1013	10	0.6	1.2	13
B 0416				16	B 0716				16	B 1016				16
B 0419				19	B 0719				19	B 1019				19
B 0419S				19	B 0719S				19	B 1019S				19
B 0419W				19	B 0722				22	B 1022				22
B 0422				22	B 0722S				22	B 1025				25
B 0422W				22	B 0725				25	B 1025S				25
B 0425				25	B 0725S				25					
B 0425S				25										
B 0425W				25										

・Sはステンレスステープル
・Wはカラー（白）ステープル

標準付属品

① ケース･････････････････････････１個
② 保護メガネ･････････････････････１個
③ 六角棒スパナ３㎜、４㎜ ････････各１個
④ 油さし･････････････････････････１個
（釘打機・タッカ用オイル入り）
⑤ ノーズキャップ（フロア打ち用）････１個
〔Ｎ 2507HMのみ〕

用　　　途

○ 建築、新建材の固定、建築部材製造
○ 吸音ボードなどの軽量鉄骨への直ばり作業
○ 壁下石膏ボード打ち
○ 家具、収納家具、足物家具、厨房家具の製造
○ キャビネットの製造
○ 建具の製造
○ フローリング施工（N 2507HMのみ）

注
- **フロア材のステープル止めは、仮止めとして使用し、必ず接着剤を併用してください。**
- **相手材の形状や硬さによっては、上手に打てない場合がありますので、試し打ちして確認の上、使用してください。**

作業前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に次の準備をすませてください。

1．エアコンプレッサ、エアホースの準備

この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。使用するときは、高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを準備してください。この機体に使用できる高圧エアホースの内径は 5 ㎜以上です。
エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

⚠　警　　告
• この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。 **• この機体およびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用になっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。**

注　**エアホースの長さは、 30 m以内のものを使用してください。**
エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。

2．エアコンプレッサ内のドレンを除去する

水や油が内部にたまると、さびの発生などで故障の原因になります。ご使用前後には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

3．ステープルの準備

用途にあったステープルを準備してください。（10ページ参照）

4．安全点検

⚠ 警　告

- **子供など作業者以外は近づけないでください。**
- **ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。**
- **損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。**

24ページの「保守・点検」を参照し、必ず行なってください。

ご使用前に

⚠ 警　告

- **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**

1．空気圧力の確認

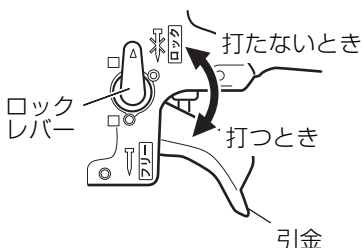
⚠ 警　告

- **この機体の使用空気圧力の範囲は1.76～2.26 MPa｛18～23 kgf／cm²｝です。**
  この範囲内で使用してください。

空気圧力は、1.76～2.26 MPa｛18～23 kgf／cm²｝の範囲でお使いください。空気圧力が1.76 MPa｛18 kgf／cm²｝未満または2.26 MPa｛23 kgf／cm²｝を超えると機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

（次ページへつづく）

2．引金のロック機構について

⚠ 警　告
• ステープルを打ち込むとき以外は、引金をロックしてください。

この機体には、引金を引けなくするロック機構がついています。

ロックレバーを「ロック」の位置にすると引金がロックされます。

打つときはロックレバーを回して「フリー」の位置に、打たないときは「ロック」の位置にしてください。

3．給油について

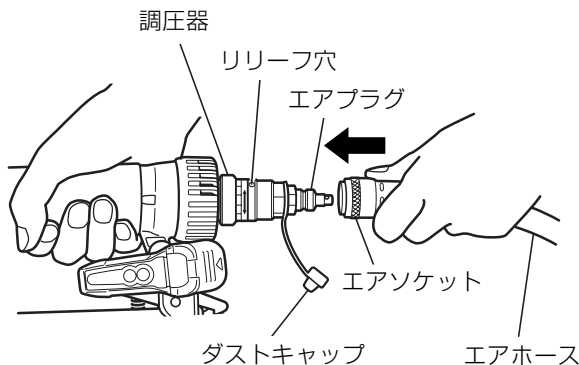
注 • **付属の高圧タッカの油さしは、ノズルに穴があいていません。針等で穴をあけて使用してください。**

○ 必ず1日に2回以上給油してください。給油は、作業の前後に2㎖｛2cc｝程度の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。

注 • **給油直後に空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散るので、油がかかっても支障のない所で2～3本ステープルを打ってから作業してください。**
• **作業後に給油した場合、ステープルを1本打つと油が内部に行き渡ります。**

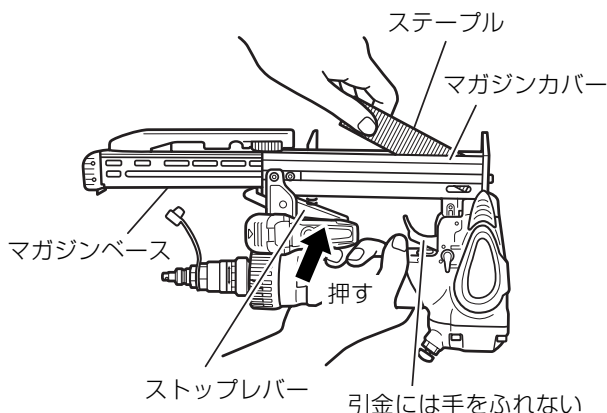
○ 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を26ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

4．エアホースを接続する

⚠ 警　告
機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。 • 引金をロックする。 • 射出口を人体に向けない。

○エアプラグからダストキャップをはずします。
○ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
○エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

注 • **エアホースを接続した直後、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。**

5．ステープルを入れる

⚠ 警　告
• ステープルを装てんする場合は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

○ストップレバーを押し、マガジンベースを後ろへ引き出します。
○ステープルの足を上にしてマガジンカバーの中に入れます。
○マガジンベースを元通り押し込み、ストップレバーでロックします。

使　い　方

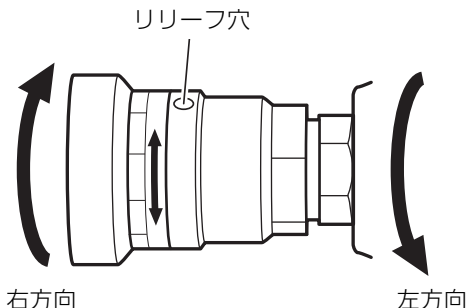
⚠　警　　告
• この機体は引金を引くだけでステープルが発射します。ステープルを打つとき以外は、引金に触れないでください。 • 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。 • 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。 • 人体に射出口を向けないでください。 • 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。 • 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。 • フックを使用するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

注
- 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。
- 使用しないとき、または作業中断時には必ずエアホースをはずしてください。
- 使用しないとき、または作業中断時にはエアプラグにダストキャップを差し込んでください。
  エアコンプレッサ内の水ぬきをこまめにおこなってください。

1．調圧器について

⚠　警　　告
• 調圧器で打ち込み調整をするときは、必ず引金をロックしてください。

この機体は、ステープル打ち込み能力（ステープルの長さ、部材の硬さなど）に応じて出力を無段階に変えられる調圧器が付いています。

調圧器を右方向（目盛りが大きくなる方向）へ回転すると打ち込み能力が強くなり、左方向（目盛りが小さくなる方向）へ回転すると弱くなります。

注 ・**調圧時、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。**

この調圧器は、高圧エアホース側の圧力 1.76 ～ 2.26 MPa ｛18 ～ 23 kgf／cm²｝ を一般圧（0.39 ～ 0.78 MPa ｛4 ～ 8 kgf／cm²｝ 前後）に減圧しています。

調圧器内にごみなどが入ると、密封性が低下し、この状態でエアホースをつないだまま長い間放置すると、徐々に機体内の圧力が上がってリリーフ弁が作動してリリーフ穴から空気もれすることがあります。

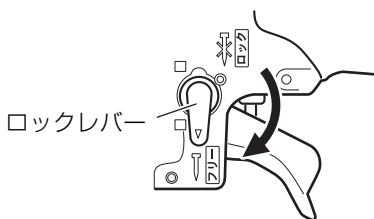
リリーフ弁は、機体内の圧力が 1.0MPa ｛10 kgf／cm²｝ 以上の高圧になると作動して、リリーフ穴から空気を排出しながら機体内の圧力を減圧するための部品です。

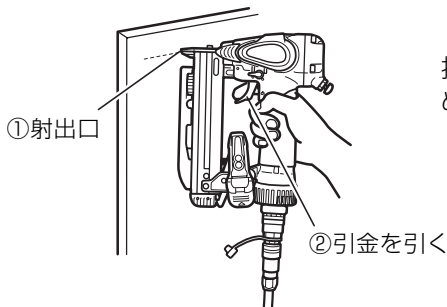
万が一、リリーフ弁が作動して空気もれした場合は、次の手順にしたがって状態を確認してください。空気もれが止まれば正常です。

①すぐにエアホースをはずします。
②エアコンプレッサの圧力が 1.76 MPa ｛18 kgf／cm²｝ 以上に復帰するまで待ちます。
③エアホースをつなぎなおします。

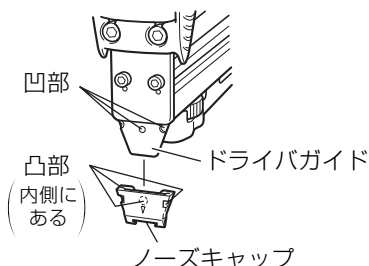
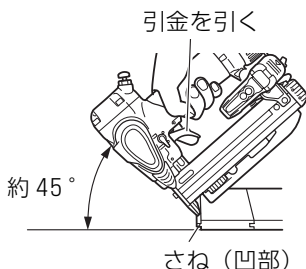
（1回で空気もれが止まらない場合は、①～③の手順を数回繰り返してください。）

上記①～③をおこなってもリリーフ穴から空気を排出し続ける場合は、調圧器の故障ですので、ただちに作業を中断してエアホースをはずし、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

2．ロックレバーを「フリー」の位置にする

ロックレバーを回して「フリー」の位置に合わせてください。

3．ステープルの打ち方

ステープルを打つ所に射出口を軽く押し当てて引金を引けば一撃で打ち込めます。

（1）フロア（床張り）打ち作業〔N 2507HMのみ〕

⚠ 警　告
• ノーズキャップを着脱するときは、必ず引金をロックし、エアホースをはずしてください。

フロア（床張り）打ち作業をする前に、ノーズキャップの凸部（3 箇所）がノーズの凹部（3 箇所）と一致するように取付け使用します。

フロア打ち作業はフロア材の浮上がりを防止するため、機体の打ち込み角度は約 45°にし、ノーズキャップの先端凸部をフロア材のさね（凹部）に確実に当てて打ち込むようにしてください。

注 • フロア打ち作業は、フロア材の浮上がりを防止するため、フロア材を接着剤で貼り付けた上で行なってください。

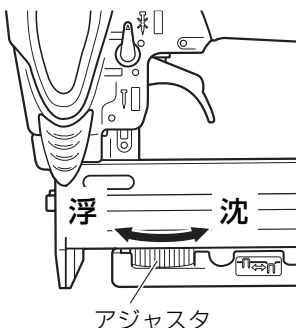
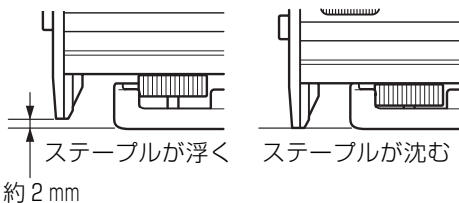
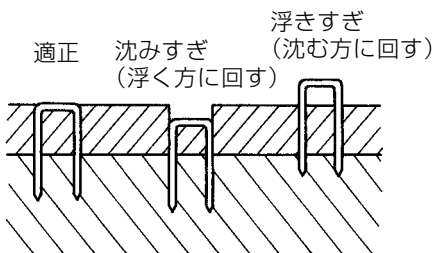
（2）作業中断時、使用後のご注意

⚠ 警　告
• 使用しない場合や作業中断時、使用後は引金をロックし、エアホースをはずしてください。 • 作業後は、エアホースをはずしてから、ステープルを全部抜き取ってください。

注 • 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を 0 にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が 0 になります。

４．打ち込み深さの調整

⚠ 警　告
• 打ち込み深さの調整は、アジャスタによって行ないます。アジャスタを調整するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。 • アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことを確認してください。

(1) アジャスタの調整

○ この機体は、アジャスタを回すことにより、打ち込み深さを調整できます。
試し打ちし、ステープルが沈みすぎるときはアジャスタを浮く方（マーク）に回します。
ステープルが浮くときはアジャスタを沈む方（マーク）に回します。
アジャスタの調整範囲は６段階で約２㎜です。

注 • **打ち込み深さの調整は、調圧器によっても調整できるのでアジャスタの調整と併用してください。**
（15ページ参照）
ステープルの打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。

5．空打ち防止機構について

この機体はステープルがなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えております。ステープルがなくなると、引金が引けなくなります。

注
- **ステープルがなくなり、引金が引けない状態で引金を強く引くと、空打ち防止機構が誤動作し、空打ちすることがありますので、強く引きすぎないように注意してください。**
- **マガジンベースを引き出すと、空打ち防止機構が無効になります。空打ちを続けると各部に影響を与えるので、空打ちをしないよう注意してください。**

6．エアダスタバルブの使い方

⚠ 警　　告

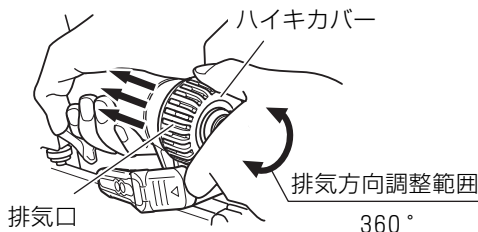
- **エアダスタバルブを使用するときは、必ず引金をロックしてください。**
- **人体に吹き出し口を向けないでください。**
- **射出口を対象物に当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。**

この機体は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。

親指でエアダスタバルブを押して使用してください。

注
- **機体に給油した直後、エアダスタバルブを使用すると油が吹き出し口より噴霧状に飛び散る場合があるので、油がかかっても支障のない所で 2 ～ 3 秒試し吹きしてから作業してください。**
- **エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。**

7．排気方向の変え方

⚠　警　告
• 排気方向の調整をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

排気口の向きは、ハイキカバーを回すことにより360°の範囲で変えることができます。

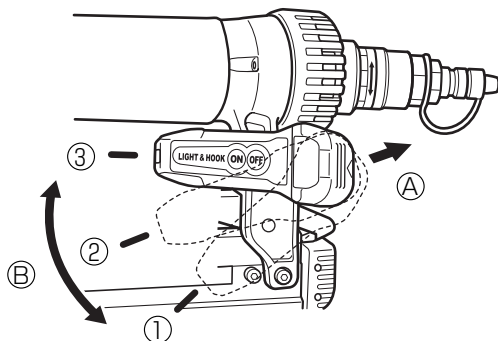
8．ライト付フックの使い方

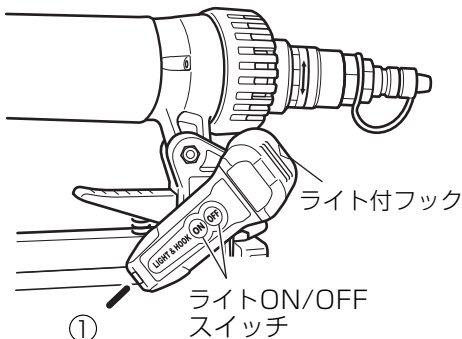
⚠　警　告
• ライト付フックを腰ベルトに掛けて機体を運ぶときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

⚠　注　意
• ライトをのぞき込んで、直接ライトの光を目に当てないでください。 ライトの光が連続して目に当たると目を傷める原因になります。

ライト付フックは
- **作業の合間に腰ベルトなどに吊下げるフックの役目**
- **暗い場所で釘打ち作業する際の補助用ライトの役目**

の２つの機能を持っています。

（1）フックとしての使い方

○フックを矢印Ⓐの方向（手前側）に引き出します。
○フックを矢印Ⓑの方向に回転させます。
○左図の①から③のいずれかの位置で、フックをはなしてください。
中間の位置には調整できません。

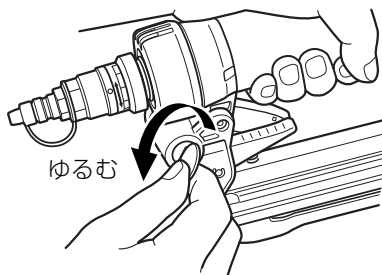
（2）補助用ライトとしての使い方

○フックの位置を図中 ① の位置に合わせます。
○ライトのONスイッチで点灯、OFFスイッチで消灯します。電池消耗防止のため、小まめに消してください。
このライト付フックには消し忘れ防止のため、15 分後に自動的に消灯する回路を組み込んであります。

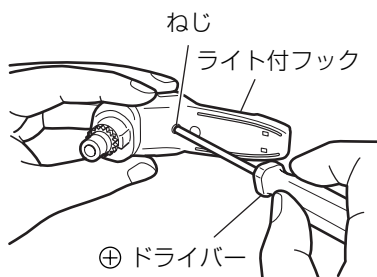
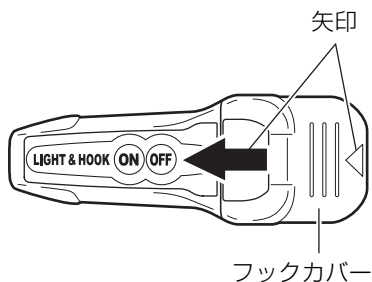
○ライトの点灯時間の目安

単 5 マンガン乾電池‥‥‥‥約 15 時間（1 回 3 分で 300 回）
単 5 アルカリ乾電池‥‥‥‥約 30 時間（1 回 3 分で 600 回）

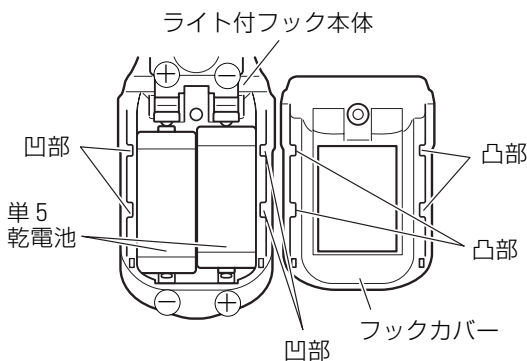
上記時間は目安です。
また、このフックにはお試し用としてマンガン乾電池が入っています。

（3）電池の交換のしかた

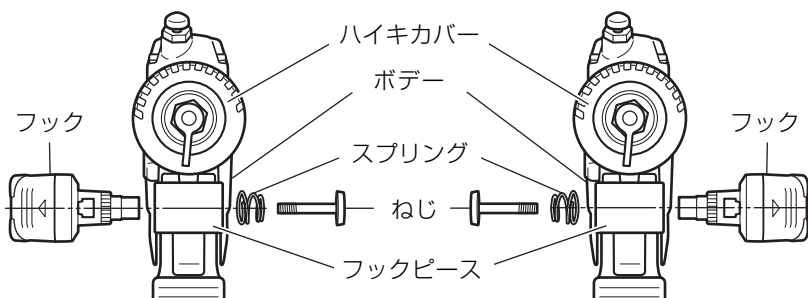
⚠ 注　　意
• **ライトの電池を換える時は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。** • **液漏れ、発熱、故障の原因になるため、下記のことに注意してください。** 電池のプラス電極（＋）、マイナス電極（－）を正しく入れてください。 電池は 2 本同時に交換してください。古い電池と新しい電池を混合しないでください。 使い切った電池は、すぐにフックから取り出してください。 • **電池を一般のごみと一緒に捨てたり、火の中に入れないでください。** • **電池は乳幼児の手の届かない所に保管してください。** • **電池の仕様表示に従って正しく使用してください。**

○機体をしっかり支え、コイン（10 円玉など）または、お手持ちの ⊖ ドライバーを使用してねじをはずします。
ねじをはずすとフックとスプリングがはずれます。

（次ページへつづく）

○フックのねじを ⊕ ドライバー（No.１）ではずし、矢印方向へ押しながらフックカバーを取りはずします。

○電池を取り出し、新しい電池を入れます。（フック本体の電池室の表示に合わせ、 ⊕ ⊖を正しく入れてください。）

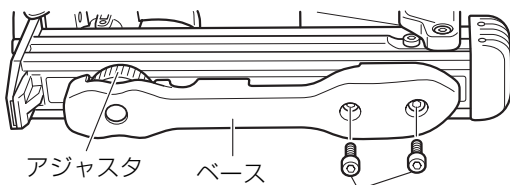
○フック本体の凹部とフックカバーの凸部を合わせながら矢印方向と反対方向に押し込み、フックカバーを取付け、ねじを締付けます。
電池は、市販品の単５、１.５Ｖをご使用ください。

注 **• ねじの締過ぎに注意してください。**

9．フックの向きの変え方

⚠ 警　告
• フックの向きを変えるときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

○ フックは2方向に向きを変えることができます。向きを変えるときは、コインまたは⊖ドライバーでねじをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。

〔裏から見た図〕

10．ベースを取りはずしてご使用になる場合には

六角棒スパナ3㎜を使用して六角穴付ボルトM4×12（2本）をはずすと、ベースとアジャスタが取りはずせます。

11．ステープルの取扱い方

注
- **ステープルの扱いをていねいにしてください。落とすと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用するとステープル送り不良により、空打ち、ステープルづまりなどが発生するため、使用しないでください。**
- **ステープルは、長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときはステープル梱包箱などに入れてください。**

保守・点検

⚠ 警　　告
• ステープルづまりを直すときや点検・手入れの際は、引金をロックし、エアホースをはずし、ステープルを全部抜き取ってください。

1．各部取付けねじの点検

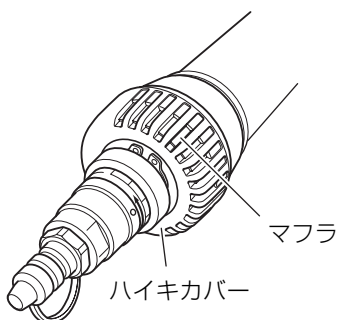
各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

2．ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。

3．マガジンの点検

マガジン内をときどき掃除してください。マガジンベースを引き出して、中にたまったステープルの接着剤、ごみ、木くずなどを取り除いてください。

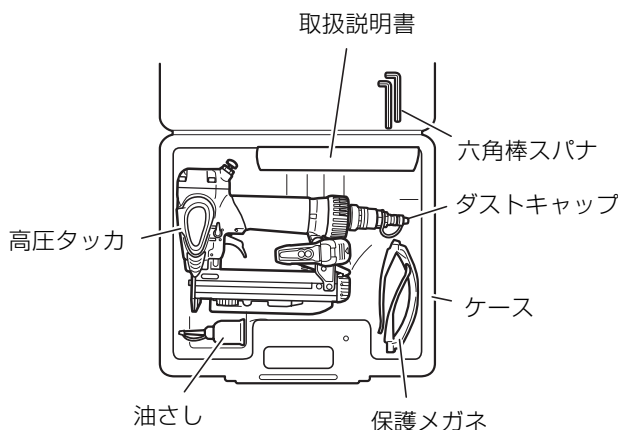
4．マフラの点検

この機体は、排気時の騒音やほこりの巻き上げを少なくするため、排気部にマフラを内蔵しています。

マフラが目づまりや破損したときは、マフラを交換してください。

マフラ交換の際は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。

5．作業後の保管は

⚠ 警　告
• 作業後は、ステープルを全部抜き取ってください。

注 • **エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。**

○ 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。
　機体と付属品は図のようにケースに入れてください。

○ 長期間使用しない場合は
- さび防止のため、エアホース取付口から給油し、マガジンベースを引き出して２、３回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
- 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
- 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を次ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

○ 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所に保管してください。

○ お子様の手の届かない乾燥して場所に保管してください。

エアコンプレッサと作業の速さ

高圧釘打機用エアコンプレッサを使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）は、下表を目安にしてください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 / 高圧釘打機用エアコンプレッサ	1.76～2.26 MPa {18～23 kgf／cm^2}
EC 1430H 2	230～200 本

○ 連続してステープル打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をおすすめします。

使用潤滑油

使用潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
日立釘打機・タッカ用オイル		――― 〔別途販売しております〕
その他のオイル〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄　SAE 10W、SAE 20W
	タービン油	タービン油各銘柄　ISO　VG 32～68（＃90～＃180）

注 • **潤滑油は必ず上表の油を使用してください。**
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

営業本部　〒108-6020　東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）
☎(03) 5783-0626(代)

北海道支店　〒060-0003　札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル）
☎(011) 271-4751(代)

東北支店　〒984-0002　仙台市若林区卸町東三丁目3番36号
☎(022) 288-8676(代)

東京支店　〒108-6020　東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）
☎(03) 5783-0629(代)

中部支店　〒460-0008　名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル）
☎(052) 262-3811(代)

北陸支店　〒920-0031　金沢市広岡二丁目13番37号（ST金沢ビル）
☎(076) 263-4311(代)

関西支店　〒530-0001　大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル）
☎(06) 4796-8451(代)

中国支店　〒730-0011　広島市中区基町11番13号（第一生命ビル）
☎(082) 228-0537(代)

四国支店　〒761-0113　高松市屋島西町字百石1981
☎(087) 841-6191(代)

九州支店　〒813-0062　福岡市東区松島四丁目8番5号
☎(092) 621-5772(代)

● 電動工具ご相談窓口 ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00～午後5：00）

日立工機株式会社